

# すいしん

発行:住吉・住之江同和人権教育推進協議会・すいしん編集委員会

住所:大阪市住吉区帝塚山東 5-3-21 市民交流センターすみよし北内

電話:06(6674)3731

## 第20回 住吉・住之江じんけんのつどい

11月10日、市民交流センターすみよし北他にて開催され、400名を越える参加がありました。全体会は、住吉連合振興町会山本会長のあいさつから始まり、小住事務局次長の基調報告では、「身近で肩書き抜きで語り合える場にしたいということで『じんけんのつどい』とひらがなになった」と第1回当時から大切にしてきた意味が語られました。今年は全国水平社創立90年でもあり、人の世に『熱と光』ある『人間尊厳の社会』づくりを地域でつくりあげていこうと締めくくりました。



**全体集会は、『報道と人権～ニュース報道をそのまま信じていいのか?』というタイトルで、関西テレビ放送アナウンサー山本浩之さんの講演でした。以下は、講演内容です。**

現在は、報道番組に専念しているが、それまでバラエティーやワイドショー、野球中継も担当してきた。今は『スーパーニュースアンカー』のキャスターをしている。

原発事故について、スポンサーとの結びつきもあり、報道を手控えていると言われたり、消費税導入についてテレビが反対しなかったりという話もある。報道は、いくら冷や飯を食わされても「わが社として行くんや」という気概を持ち、国に対して許認可の問題があっても、顔色を伺うようではいけない。

水平社50周年のとき、ドキュメンタリー『冬の海』が制作された。差別は許さないという思いを社会に投げかけた。「部落差別はなくなりますか」の問いに住吉の大川恵美子さんは、「逆にあなたに聞きたい。あなた自身の問題です」と答えている。また、ドキュメンタリー『橋のない川の世界』では、「えた、ひにん」という言葉も使った。制作側は、その表現を避けて通れないと考えた。でもその表現はまずいからやめてとなる。タブーであり、表現しないことで問題視されないと考えている。

昭和天皇崩御で、心齋橋に出て取材をしていると、楽しそうなカップルや人々の様子を「道行く人はいつもと変わらない」と伝えると、上からは指摘され、視聴者からクレームも来た。事実を伝えるという報道の姿勢は大切で、今もあの時のことは正しいと思っている。また、『発掘あるある大事典』の捏造問題の時、「会社内部のことをどうして取り上げんねん」と言われた時、「何言うてんねん。そんな考えならテレビ局やめろ」とやり合った。報道は独立して、正しいと思うことを結果を恐れず、正面から伝えなければならない。

東日本大震災以降、良く使われている言葉に『絆』がある。いい言葉ではあるが、有事の時だけでなく常日頃からそうであってほしい。「あすのエネルギー問題は」ということは声高に言うが、「福島の人々の生活はどうなってんねん」となぜ声高に言わないのかを感じる。わずかにあった蓄えも底をつき、被災者はこれからが大変なのである。

### 《参加者の感想》

「山本さんのように信念をもって報道に携わる人が増えて欲しいと思った。フィルターが掛けられた報道に対して、何が真実なのかを見分けることが必要だと思った。」

**教育分科会①「あした元気になあれ」松村智広さん（みえ人権教育・啓発研究会代表）**

題字に「あした天気」と書かれているのを見て、英語では天気も元気も fine ですからと、こちらのミスをつかみにして、軽快なトークがはじまりました。洒落で笑いを誘いながら、自分のプライバシーとひきかえに、それを伝えることで差別をなくしたい、自分を語らずして人権啓発はないという熱い思いが語られました。

命とひきかえに産んでくれた母。土方として働き 60 歳でなくなった父。幼いときから子守奉公に出、一日も学校に行っていない祖母は、97 歳になった。小学生の時、持ち帰ったプリントをだれも読めなくて忘れ物をしたら、先生にひどく叱られた。読めないの取っていない新聞を家から持ってこいと言われて困った。高校生のころは、部落に生まれたことをひたすら隠し、家に来られたらかなわんから、親友もつくらなかった。部落に生まれたことで、ずっと親をうらんでいた。よく家で暴れた。自分が結婚差別をされて家で暴れたときは、体のごつかった父が初めて負けてくれた。

運動に出会って、部落に生まれたことではなく、差別することが恥ずかしいことだとわかった。人を変えることは難しいが、自分を変えることはできる。自分が変われば周りも変わる。一人では何もできないというが、一人からしか始まらない。人権教育をすれば学力も必ず伸びる。目的ができると人は変わる。勉強をあきらめていた高知の中学生が、識字学級で学んだ祖母の手紙を読んで変わった。その子から合格したという手紙をもらって、うれしくて手紙に向かって話しかけている祖母の姿を見て、そのすごさを知った。

最後に、松村さんが英語教師として赴任された大山田中学校での教育実践のビデオを見せていただき、分科会を終えました。

**教育分科会②「釜ヶ崎で出会った子どもたちとのかかわりで見えてきたこと」****荘保共子さん（カトリック大阪大司教区子どもの里館長）**

釜ヶ崎での路上死は、年間に約 100 人で、実質はその 3 倍である。最近、梅田で 16 歳の少年に野宿者が殺害されたと報道された。過去を見れば、1983 年横浜寿町で中学生複数に野宿者が襲撃を受け、3 人の方が殺されて、初めて世間にクローズアップされた。そのころ釜ヶ崎の子どもにも野宿者のことを聞くと、「こじき」「きたない」「つばかけた」「爆竹投げた」等の言葉が返ってきた。子どもたちに二度と野宿者襲撃をしてほしくないという思いから、言葉だけでなく体験が大事ということで、『子ども夜回り』を 1986 年から続けている。自己尊重感の低い子どもが襲撃をしている。自信が持てず、だれの役にも立たない、おれなんかという鬱積したものを発散させるためにしていることが多い。自己尊重感を高めることがいじめをなくすことにもつながる。根っから悪い子どもはいない。

『子どもの里』は、6～18 歳までの子どもで、生きづらさを抱えた子ども、ほっといたらあかん家庭の子どもの地域での居場所となっている。西成区では、全中学校区で要保護児童のためのケース会議を開いて連携している。『切れ目なき支援』と『地域の中での解決』が大切である。『ほっとく社会がおかしい』のである。



# 学校の窓 (平林小学校)

## お兄ちゃん お姉ちゃんと たのしいよ！

平林小学校では、全校児童で12の縦割り班をつくり、その中で1年と6年、2年と4年、3年と5年がペアになって、いろいろな活動をしています。

6月に行われた「平林っ子 遊ぼう会」では、縦割り班で各クラスのお店をまわりました。

毎週木曜日の集会委員による朝の集会では、楽しいゲームをしたり、クイズの答えを一緒に考えたりしています。先日も「ペアなわとびリレー」で上の学年の子がと跳び縄をまわし、下の学年の子と一緒に跳ぶ楽しいゲームをしました。いつも6年生は1年生を教室まで送り迎えもしています。

今では低学年の児童は、ペアのお兄ちゃん・お姉ちゃんともすっかり仲良しになり、手をつないでもらったり、やさしく教えてもらったりする様子がたくさん見られます。



## 「平和のつどい」で戦争や平和について学習



本校では、1学期に各学年の発達段階に応じて戦争や平和について学習しています。7月には、全学年が講堂に集まり「平和のつどい」を行いました。戦争を二度と繰り返してはならないという強い気持ちや、自分たちの平和を守っていこうという願いを呼びかけや歌などで、他の学年に伝えました。

他の学年の発表をみることにより、さらに平和とは何かを考えることができ、児童からも「他の学年が、勉強したことがよくわかった。」「みんなが、平和を願っていることがわかった。」という感想が多く見られました。

これからも、「平和のつどい」を中心に、平和学習を続けていきたいと考えています。

# 学校の窓 (新北島小学校)

## みんなで民族学級を盛り上げよう

新北島小学校では、毎年、南大阪子ども民族音楽会の前に児童集会で校内発表会をしています。今年度は11月7日(水)の5時間目に、全学年で発表を鑑賞して、南大阪子ども民族交流会のテーマ曲「モッチェンイ・トマト」を歌う取り組みをしました。

テーマ曲の「モッチェンイ・トマト」は数週間前から歌詞を各学年に配布し、しっかり歌えるように各クラスで練習しました。

当日、民族学級の仲間たちがチョゴリを着て、ブンムルやサンモを一生懸命発表しました。講堂内からは、驚きの声や拍手が起こりました。その後、6年生の民族学級の仲間が南大阪子ども民族音楽会への意気込みをアピールしました。

最後に「モッチェンイ・トマト」をみんなで歌いました。その中で、金順希ソンセンムと民族学級の仲間が踊りを教えると、歌っていた児童も踊りながら歌うことができました。



### 《民族学級の子もたちの感想》

- ・はじめは、緊張したけど精一杯がんばれた。南大阪民族音楽会では完璧に演奏したいと思いました。
- ・練習より大きな音が出せてよかった。「モッチェンイ・トマト」のおどりで、みんなノリノリでおどってくれてよかった。

### 《1年～6年生の感想》

- ・ブンムルはとてもむずかしそうだった。モッチェンイ・トマトはみんなで踊って、歌って、楽しかった。
- ・民族学級の歌や演奏を聞いてすごいと思いました。みんなで歌ったのが楽しかったので、来年もまた見たいです。

今回の取り組みを通して、民族学級を応援しようという気持ちがさらに高まったと思います。来年度以降もさらにみんなが楽しく取り組める活動を工夫し、民族学級を盛り上げていきたいと思っています。

# 学校の窓（新北島中学校）

## 「アンニョンハシムニカ！！」

新北島中学校民族学級です。  
毎週火曜日の放課後活動しています。  
2 学期は文化祭の舞台発表に向けて、「チャンゴ」「チン」「ケンガリ」「プク」の楽器に分かれ、「サムルノリ」をしました。  
少ない練習期間で思うようにいかず、リズムがバラバラになって演奏がうまくいかないときもありました。  
当日は緊張しましたが、4 人の気持ちをひとつに「サムルノリ」を演奏する事ができました。  
そのことを自信にし、11/17（土）の南大阪子ども民族音楽会では 3 年生がソロパートをまかされました。



### 「文化祭でのアピール文」

アンニョンハシムニカ。民族学級です。  
普段は 3 年生一人、2 年生 3 人で活動しています。  
ハングルを習ったり、韓国・朝鮮の文化について勉強しています。  
ぼくは、チャンゴを叩くのがとても好きです。みんなと一緒に、とても楽しいです。

サムルノリというのは、4 つの打楽器で演奏することです。  
ケンガリは雷の音です。チャンゴは雨。プクは雲。チンは風です。  
この演奏を聴いて、韓国・朝鮮につながりのある人、民族学級に来てくれると、うれしいです。

2012 年 11 月 2 日

# 同推協公開授業研究会の報告

さる11月21日（水）、敷津浦小学校にて、『自分・仲間・地域のつながりから豊かな人権感覚をもつ子どもを育てたい ～豊かな読みを通して 自尊心形成の支援のあり方～』をテーマとした公開授業研究会を行い、200名近い方のご参加をいただきました。お忙しいなか、ありがとうございます。敷津浦小学校教職員をはじめ、取り組みの準備から協力をしていただいた、全ての関係者のみなさんに感謝します。

敷津浦小学校では、「国語科・人権総合学習」を研究教科として位置付け、各学年でテーマを設定し、体験学習・話し合い活動をより多く取り入れながら進めてきました。

学年	学年のテーマ	単元名
1年	自分のよさ、友だちのよさに気づける子どもの育成 ～自分史から学ぶ、命～	わたしのたんじょう
2年	自分のまちを『人にやさしいまち』にしたいと思える子どもの育成 ～町たんけんから学ぶ、バリアフリー～	視覚にしょうがいのある人について考えよう
3年	自分の地域のよさに気づける子どもの育成 ～地域学習から学ぶ、伝統～	戦争時の地域の人々の暮らしを考えよう
4年	自分のくらしを見つめることのできる子どもの育成 ～地域の歴史から学ぶ、環境～	体験して考えよう
5年	自分の周りにある国際社会に気づける子どもの育成 ～在日朝鮮人教育から学ぶ、共生～	自分の中にある気持ちと向き合おう
6年	自分につながるすべての命を尊重できる子どもの育成 ～歴史学習から学ぶ、真の平和～	子どもの権利条約から平和人権について考える

○1年生 「生まれてきてくれてありがとう」を読んで、「わたしも、赤ちゃんのいるおなか、触ったことがある！」「ぼくが生まれてきた時は、家族はどんなふうにおもってたんかなあ？」と感想や聞きたいことが出てきました。それをもとに、各家庭の理解と協力を得ながら、自分が生まれた時の様子を聞き取り、自分が思ったことを発表しました。生まれた時の様子を知れた事、お父さんやお母さんがいっぱい話してくれた事、生まれてきた時も『生まれてきてくれてありがとう』とおもってもらえていた事が、うれしく、心に残ったようです。



赤ちゃん人形を抱えてみる子ども

分科会では、各校で行っている取り組みの交流や1年生での意見交流のあり方などにつ

いて<sup>とうぎ</sup>討議<sup>いけん</sup>しました。意見<sup>いけん</sup>として、「視<sup>しかくてき</sup>覚<sup>た</sup>的なもの（例えば、小<sup>ちい</sup>さい<sup>つか</sup>い<sup>ふく</sup>ころ<sup>しゅしん</sup>使<sup>つか</sup>っていた<sup>ふく</sup>服<sup>しゅしん</sup>や<sup>しゅしん</sup>写<sup>しゅしん</sup>真<sup>しゅしん</sup>)  
が<sup>すこ</sup>少<sup>はい</sup>し<sup>はい</sup>でも<sup>ほう</sup>入<sup>はな</sup>っていた<sup>あ</sup>方<sup>あ</sup>が、話<sup>かっぱつ</sup>し<sup>かっぱつ</sup>合<sup>かっぱつ</sup>い<sup>かっぱつ</sup>が<sup>しょうがっこう</sup>活<sup>じゅぎょう</sup>発<sup>じゅぎょう</sup>に<sup>ようす</sup>な<sup>ようす</sup>った<sup>ようす</sup>の<sup>ようす</sup>で<sup>ようす</sup>は<sup>ようす</sup>な<sup>ようす</sup>い<sup>ようす</sup>か」「小<sup>しょうがっこう</sup>学<sup>じゅぎょう</sup>校<sup>じゅぎょう</sup>で<sup>ようす</sup>の<sup>ようす</sup>授<sup>じゅぎょう</sup>業<sup>じゅぎょう</sup>の<sup>ようす</sup>様<sup>ようす</sup>子<sup>ようす</sup>の<sup>ようす</sup>様<sup>ようす</sup>子<sup>ようす</sup>が<sup>ようす</sup>わ<sup>ようす</sup>か<sup>ようす</sup>っ<sup>ようす</sup>て<sup>ようす</sup>よ<sup>ようす</sup>か<sup>ようす</sup>っ<sup>ようす</sup>た」<sup>ようす</sup>な<sup>ようす</sup>ど<sup>ようす</sup>が<sup>ようす</sup>で<sup>ようす</sup>ま<sup>ようす</sup>し<sup>ようす</sup>た。

こうない あ い ま す く たいけん  
校内アイマスク体験



○2年生 視<sup>しかく</sup>覚<sup>しかく</sup>に<sup>しょうがい</sup>し<sup>しょうがい</sup>ょう<sup>しょうがい</sup>が<sup>しょうがい</sup>い<sup>しょうがい</sup>の<sup>しょうがい</sup>あ<sup>しょうがい</sup>る<sup>しょうがい</sup>『な<sup>なお</sup>お<sup>お</sup>や<sup>やくん</sup>く<sup>くん</sup>ん』の<sup>しょうがい</sup>  
日<sup>にち</sup>常<sup>じょう</sup>生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>の<sup>ようす</sup>様<sup>ようす</sup>子<sup>し</sup>を<sup>し</sup>知<sup>し</sup>る<sup>し</sup>こ<sup>し</sup>と<sup>し</sup>を<sup>し</sup>通<sup>とお</sup>して、学<sup>がっこう</sup>校<sup>がっこう</sup>、ク<sup>くら</sup>ラ<sup>らす</sup>ス<sup>らす</sup>と  
い<sup>くう</sup>う<sup>かん</sup>空<sup>とも</sup>間<sup>す</sup>で<sup>す</sup>共<sup>じぶん</sup>に<sup>じぶん</sup>過<sup>じぶん</sup>ご<sup>じぶん</sup>し<sup>じぶん</sup>て<sup>じぶん</sup>い<sup>じぶん</sup>く<sup>じぶん</sup>た<sup>じぶん</sup>め<sup>じぶん</sup>に<sup>じぶん</sup>自<sup>じぶん</sup>分<sup>じぶん</sup>の<sup>じぶん</sup>で<sup>じぶん</sup>き<sup>じぶん</sup>る<sup>じぶん</sup>こ<sup>じぶん</sup>と<sup>じぶん</sup>

を<sup>かんが</sup>考<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>ま<sup>とお</sup>し<sup>え</sup>た。子<sup>えほん</sup>ども<sup>とお</sup>た<sup>えほん</sup>ち<sup>えほん</sup>は、絵<sup>え</sup>本<sup>ほん</sup>を<sup>えほん</sup>通<sup>とお</sup>して、な<sup>なお</sup>お<sup>お</sup>や<sup>やくん</sup>く<sup>くん</sup>ん<sup>やくん</sup>の<sup>やくん</sup>様<sup>ようす</sup>子<sup>し</sup>を<sup>し</sup>知<sup>し</sup>り、自<sup>じぶん</sup>分<sup>じぶん</sup>た<sup>じぶん</sup>ち<sup>じぶん</sup>に<sup>じぶん</sup>も<sup>じぶん</sup>得<sup>とく</sup>意<sup>い</sup>な<sup>にがて</sup>こ<sup>にがて</sup>と<sup>にがて</sup>や<sup>にがて</sup>苦<sup>にがて</sup>手<sup>にがて</sup>な<sup>にがて</sup>  
こ<sup>にがて</sup>と<sup>にがて</sup>あ<sup>にがて</sup>る<sup>にがて</sup>よ<sup>にがて</sup>う<sup>にがて</sup>に、な<sup>なお</sup>お<sup>お</sup>や<sup>やくん</sup>く<sup>くん</sup>ん<sup>やくん</sup>の<sup>やくん</sup>得<sup>とく</sup>意<sup>い</sup>な<sup>にがて</sup>こ<sup>にがて</sup>と<sup>にがて</sup>や<sup>にがて</sup>苦<sup>にがて</sup>手<sup>にがて</sup>な<sup>にがて</sup>こ<sup>にがて</sup>と<sup>にがて</sup>あ<sup>にがて</sup>る<sup>にがて</sup>こ<sup>にがて</sup>と<sup>にがて</sup>に<sup>き</sup>気<sup>き</sup>づ<sup>き</sup>く<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>が<sup>き</sup>出<sup>で</sup>ま<sup>で</sup>し<sup>で</sup>ま<sup>で</sup>し<sup>で</sup>た。ま<sup>き</sup>た、な<sup>き</sup>お<sup>き</sup>や<sup>き</sup>く<sup>き</sup>ん<sup>き</sup>と<sup>き</sup>自<sup>じぶん</sup>分<sup>じぶん</sup>と<sup>き</sup>の<sup>き</sup>共<sup>きょう</sup>通<sup>つう</sup>点<sup>てん</sup>に<sup>き</sup>気<sup>き</sup>づ<sup>き</sup>く<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>も<sup>き</sup>で<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>し<sup>き</sup>た。こ<sup>き</sup>の<sup>き</sup>様<sup>よう</sup>な<sup>き</sup>気<sup>き</sup>づ<sup>き</sup>き<sup>き</sup>か<sup>き</sup>ら、<sup>し</sup>「視<sup>し</sup>  
覚<sup>かく</sup>に<sup>しょうがい</sup>し<sup>しょうがい</sup>ょう<sup>しょうがい</sup>が<sup>しょうがい</sup>い<sup>しょうがい</sup>の<sup>しょうがい</sup>あ<sup>しょうがい</sup>る<sup>しょうがい</sup>人<sup>ひと</sup>が<sup>とく</sup>特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>な<sup>そんざい</sup>存<sup>じぶん</sup>在<sup>おな</sup>で<sup>おな</sup>は<sup>おな</sup>な<sup>おな</sup>く、自<sup>おな</sup>分<sup>おな</sup>た<sup>おな</sup>ち<sup>おな</sup>と<sup>おな</sup>同<sup>おな</sup>じ<sup>おな</sup>な<sup>おな</sup>ん<sup>おな</sup>だ<sup>おな</sup>と<sup>おな</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>おも</sup>た」と<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>っ<sup>おも</sup>た

分<sup>ぶん</sup>科<sup>か</sup>会<sup>かい</sup>で<sup>かい</sup>は、こ<sup>と</sup>の<sup>と</sup>取<sup>と</sup>り<sup>と</sup>組<sup>と</sup>み<sup>と</sup>に<sup>たい</sup>対<sup>たい</sup>し<sup>たい</sup>て<sup>たい</sup>の<sup>たい</sup>保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>の<sup>はん</sup>反<sup>はん</sup>応<sup>おう</sup>に<sup>しつもん</sup>つ<sup>しつもん</sup>い<sup>しつもん</sup>て<sup>しつもん</sup>の<sup>しつもん</sup>質<sup>ちゆう</sup>問<sup>がっこう</sup>や、中<sup>とく</sup>学<sup>とく</sup>校<sup>とく</sup>の<sup>とく</sup>取<sup>とく</sup>り<sup>とく</sup>組<sup>とく</sup>み<sup>とく</sup>  
の<sup>なか</sup>中<sup>なか</sup>で、し<sup>なか</sup>ょう<sup>なか</sup>が<sup>なか</sup>い<sup>なか</sup>の<sup>なか</sup>あ<sup>なか</sup>る<sup>なか</sup>子<sup>こ</sup>ども<sup>こ</sup>た<sup>こ</sup>ち<sup>こ</sup>が<sup>あた</sup>新<sup>あた</sup>しい<sup>あた</sup>環<sup>かん</sup>境<sup>きョウ</sup>や<sup>とも</sup>友<sup>とも</sup>だ<sup>かんけい</sup>ち<sup>かんけい</sup>関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>に<sup>な</sup>な<sup>な</sup>か<sup>な</sup>な<sup>な</sup>か<sup>な</sup>馴<sup>な</sup>染<sup>な</sup>め<sup>な</sup>ず<sup>な</sup>に<sup>とまど</sup>戸<sup>とまど</sup>惑<sup>とまど</sup>  
う<sup>おお</sup>こ<sup>おお</sup>と<sup>おお</sup>い<sup>おお</sup>と<sup>おお</sup>い<sup>おお</sup>う<sup>おお</sup>話<sup>はなし</sup>な<sup>はなし</sup>ど<sup>はなし</sup>が<sup>はなし</sup>で<sup>はなし</sup>ま<sup>はなし</sup>し<sup>はなし</sup>た。

○3年生 自<sup>じぶん</sup>分<sup>じぶん</sup>た<sup>じぶん</sup>ち<sup>じぶん</sup>の<sup>す</sup>住<sup>ちいき</sup>む<sup>ちいき</sup>地<sup>ちいき</sup>域<sup>ちいき</sup>の<sup>き</sup>よ<sup>き</sup>さ<sup>き</sup>に<sup>き</sup>気<sup>き</sup>づ<sup>き</sup>く<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>が<sup>き</sup>  
で<sup>じぶん</sup>き<sup>じぶん</sup>る<sup>ちいき</sup>よ<sup>ちいき</sup>う<sup>ちいき</sup>、自<sup>がくしゅう</sup>分<sup>がくしゅう</sup>た<sup>がくしゅう</sup>ち<sup>がくしゅう</sup>の<sup>はじ</sup>地<sup>はじ</sup>域<sup>はじ</sup>歴<sup>はじ</sup>史<sup>はじ</sup>か<sup>はじ</sup>ら<sup>はじ</sup>学<sup>はじ</sup>習<sup>はじ</sup>を<sup>はじ</sup>始<sup>はじ</sup>め<sup>はじ</sup>ま<sup>はじ</sup>し<sup>はじ</sup>た。  
と<sup>とく</sup>く<sup>とく</sup>自<sup>とく</sup>分<sup>とく</sup>た<sup>とく</sup>ち<sup>とく</sup>の<sup>しき</sup>敷<sup>しき</sup>津<sup>しき</sup>浦<sup>しき</sup>小<sup>しょうがっこう</sup>学<sup>しょうがっこう</sup>校<sup>しょうがっこう</sup>に<sup>しょうてん</sup>焦<sup>あ</sup>点<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>当<sup>せん</sup>て<sup>せん</sup>、戦<sup>せん</sup>争<sup>せん</sup>当<sup>せん</sup>時<sup>せん</sup>  
の<sup>く</sup>暮<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>し<sup>く</sup>や<sup>く</sup>学<sup>がっこう</sup>校<sup>がっこう</sup>の<sup>うつ</sup>移<sup>か</sup>り<sup>まな</sup>変<sup>まな</sup>わ<sup>まな</sup>り<sup>まな</sup>を<sup>まな</sup>学<sup>まな</sup>び、た<sup>ひと</sup>く<sup>ひと</sup>さ<sup>ひと</sup>ん<sup>ひと</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>々<sup>ひと</sup>の<sup>ひと</sup>  
協<sup>きョウ</sup>力<sup>りョク</sup>と<sup>と</sup>努<sup>と</sup>力<sup>と</sup>で<sup>じぶん</sup>自<sup>じぶん</sup>分<sup>じぶん</sup>た<sup>じぶん</sup>ち<sup>じぶん</sup>の<sup>ちいき</sup>地<sup>ちいき</sup>域<sup>ちいき</sup>が<sup>な</sup>成<sup>な</sup>り<sup>な</sup>立<sup>な</sup>っ<sup>な</sup>て<sup>な</sup>い<sup>な</sup>る<sup>な</sup>こ<sup>な</sup>と<sup>な</sup>  
を<sup>かんが</sup>考<sup>こ</sup>え<sup>きョウ</sup>ま<sup>きョウ</sup>し<sup>きョウ</sup>た。授<sup>くうしゅう</sup>業<sup>しょうしつ</sup>で<sup>きョウしつ</sup>は、空<sup>きョウしつ</sup>襲<sup>きョウしつ</sup>で<sup>きョウしつ</sup>焼<sup>きョウしつ</sup>失<sup>きョウしつ</sup>した<sup>きョウしつ</sup>教<sup>きョウしつ</sup>室<sup>きョウしつ</sup>や



せんそうたいけんしゃ はなし  
戦争体験者のお話

運<sup>うん</sup>動<sup>どう</sup>場<sup>じョウ</sup>、給<sup>きョう</sup>食<sup>しよく</sup>室<sup>しつ</sup>、プ<sup>ぷ</sup>ール<sup>うる</sup>な<sup>ほ</sup>ど<sup>ほ</sup>が、保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>や<sup>せんせい</sup>先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>、地<sup>ちいき</sup>域<sup>ちいき</sup>の<sup>かたがた</sup>方<sup>かたがた</sup>々<sup>かたがた</sup>な<sup>おお</sup>ど<sup>おお</sup>く<sup>おお</sup>の<sup>おお</sup>人<sup>おお</sup>た<sup>おお</sup>ち<sup>おお</sup>の<sup>おお</sup>「は<sup>おお</sup>た<sup>おお</sup>ら<sup>おお</sup>き<sup>おお</sup>か<sup>おお</sup>け」  
の<sup>ちから</sup>お<sup>ちから</sup>か<sup>ちから</sup>げ<sup>ちから</sup>で<sup>ちから</sup>造<sup>ちから</sup>ら<sup>ちから</sup>れ<sup>ちから</sup>て<sup>ちから</sup>き<sup>ちから</sup>た<sup>ちから</sup>経<sup>ちから</sup>緯<sup>ちから</sup>を<sup>ちから</sup>知<sup>ちから</sup>り<sup>ちから</sup>ま<sup>ちから</sup>し<sup>ちから</sup>た。そ<sup>ちから</sup>の<sup>ちから</sup>「は<sup>ちから</sup>た<sup>ちから</sup>ら<sup>ちから</sup>き<sup>ちから</sup>か<sup>ちから</sup>け」<sup>ちから</sup>の<sup>ちから</sup>力<sup>ちから</sup>の<sup>ちから</sup>も<sup>ちから</sup>と<sup>ちから</sup>で<sup>ちから</sup>あ<sup>ちから</sup>  
る<sup>ねが</sup>『願<sup>ねが</sup>い』<sup>ねが</sup>は、ど<sup>ねが</sup>の<sup>ねが</sup>よ<sup>ねが</sup>う<sup>ねが</sup>な<sup>ねが</sup>も<sup>ねが</sup>の<sup>ねが</sup>で<sup>ねが</sup>あ<sup>ねが</sup>つ<sup>ねが</sup>た<sup>ねが</sup>の<sup>ねが</sup>か<sup>ねが</sup>を<sup>ねが</sup>考<sup>ねが</sup>え<sup>ねが</sup>ま<sup>ねが</sup>し<sup>ねが</sup>た。子<sup>こ</sup>ども<sup>こ</sup>た<sup>こ</sup>ち<sup>こ</sup>が<sup>こ</sup>、<sup>たの</sup>「楽<sup>たの</sup>しく<sup>べん</sup>勉<sup>べん</sup>強<sup>きョウ</sup>で<sup>べん</sup>

きるように」「安心して学校に行けるように」などの意見を持ちました。今後は、その『願い』を受けて、子どもたち自身ができる（自分から地域に参加できる）ことは何かを考え、地域とのつながりを深めていければと思います。

分科会では、各校の地域学習の取り組みの情報交換を行い、ものづくりの体験・見学を中心とした取り組みの交流ができました。特に、戦争に関わる取り組みについては、体験者や資料が少ないことから各校が連携していければという話がありました。

〇4年生 祭りなどで使われる和太鼓は、どのようにして作られているのかを学習しました。子どもたちは、太鼓を見たり、打ったりする経験はあっても、太鼓がどのようにして作られているのかを知る機会はなかなかありません。太鼓づくりでも、一番重要だとされる



がんばって太鼓を作る子どもたち

革づくり工程を表した本校自作DVDを使い詳しく学習しました。職人さんの技術のすばらしさだけでなく、「むだにしたら、牛に申し訳ない」「立派な太鼓革にしたらな、罰があたる」と言いながら、太鼓革づくりを行う職人さんの思いを感じ取ることでできる子どもが多くいました。今後は、わけてもらった太鼓革で、太鼓づくりを行います。ものづくりの苦労や工夫、喜びを体験しながら、これからの「学び」や「生きる力」につながればと思います。

分科会では、『革・牛⇒部落産業』としてまとめてしまうのではなく、今回のように、楽しい体験学習から取り組むのが良い。そして、今後の学習の中で、自分たちが感じ、思い、考えたことなどを思い起こしながら、差別されてきた(されている)ことの不合理性について考える出発点とすることが重要であるとの話がありました。

〇5年生 「イルナム君とぼく」「コリアタウンへようこそ」の二つの読み物教材から、在日韓国・朝鮮人の人々への差別について考えました。些細なきっかけで、「ぼく」がイルナム君に言ってしまった言葉。その言葉に対しての二人の感じ方の違いを確認した後、どうすれば「ぼく」はイルナム君の痛みを共有できるのかを話し合いました。子どもたちは今までの学習と

かんれん かつぱつ しぶん かんが はっぴょう さべつ たにんごと  
 関連づけながら活発に自分の考えを発表することができました。差別を他人事ではなく、自

ゆんのり  
 ユンノリをする子ども



ぶんじしん もんだい かんが たいせつ かん  
 分自身の問題として考えることの大切さを感じることができ  
 きたと思います。

ぶんかい ほんたんげん がくしゅう とき こ よう  
 分科会では、本単元の学習をしている時の子どもたちの様  
 す かん じつもん こどもたちが みちか おこる てきごと  
 子に関する質問や「子どもたちが、身近に起こる出来事とし  
 もんだい とく こどもたちが かつぱつ いけん はっぴょう  
 て問題に取り組めていた」「子どもたちが、活発に意見を発表  
 していたのが、印象的だった」などの意見がでました。

※ユンノリは、韓国・朝鮮の「すごろく」遊び

ねんせい がつき ないせん ぶんそうちたい ことさまざま もんだい しら がくしゅう すす いけんぶん  
 ○6年生 1学期から、内戦・紛争地帯の事や様々な問題について調べ学習を進め、意見文  
 を書き、交流する中で、「平和について」の考えを深めてきました。さらに、平和人権登校日  
 には、代表者が「平和について考える」という課題のもと、それぞれの意見をパネルトーク  
 で発表しました。これらの学習を通して子どもたちは、「戦争がない状態だけが平和ではな  
 く、あらゆる差別のない社会が平和である」という意識をもち始めました。「戦争は最大の人権  
 侵害である」と言われる様に、一人ひとりの人権を守ることは命を守ることにつながること  
 から、「子どもの権利条約」についての学習へとつなげてきました。

じゅぎょう こ けんりじょうやく だい じょう しょうてん  
 授業では、子どもの権利条約の第12条に焦点  
 をあて、「今まで言いたかったけど言えなかったこと」  
 について、グループで交流しました。活発な交流の  
 なか じゅぎょうこ こどもたちからは、い  
 中で、授業後、子どもたちからは、「言えてすっきり  
 した」「みんなも同じこと考えていたんだ」などの声  
 があがりました。

ぱねるとおく ようす  
 パネルトークの様子



ぶんかい むすか かだい なか こ いっしょうけんめいかんが はっぴょう いんしょう  
 分科会でも、難しい課題の中で、「子どもたちが一生懸命考え、発表しているのが印象  
 てき ちゅうがっこう こうみん じかん こ けんりじょうやく がくしゅう てすと  
 的だった」「中学校では、公民の時間に『子どもの権利条約』について学習するが、テスト  
 の為というようなどころがある。やはり丁寧に取り組む必要を感じた」等の意見がでました。

# すみほ せん太郎くん

ますだ みえこ —127—

## 職場体験



## 2012年度住吉・住之江同推協人権全体公演会

# モンゴル民族音楽コンサート

## ～草原の風のしらべ～



【日程】2013年2月27日(水)

15:30~17:00(受付15:15~)

【場所】大阪市立住之江小学校

【主催】住吉・住之江同和人権教育推進協議会

【共催】住之江小学校PTA 敷津浦小学校PTA  
住之江中学校PTA 真住中学校PTA

【問合せ】市民交流センターすみよし北内

住吉・住之江同推協事務局(06)6674-3731

☆参加無料 ☆申し込み不要

### 【会場案内】

〒559-0013 大阪市住之江区御崎 4-6-43



(交通アクセス)

●地下鉄四ツ橋線  
住之江公園駅下車  
東へ約700m

●南海本線  
住ノ江駅下車  
北西へ約1.2km